

令和6年度入試【総合型選抜Ⅱ】

小論文

(人間科学部)

注 意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題紙は6ページです。解答用紙は4枚、下書き用紙は4枚です。
指示があってから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
- 4 字数を指定したものは、句読点を字数に含めて数えてください。アラビア数字は2字で1字として計算してください。
- 5 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 6 試験終了後、問題紙および下書き用紙は持ち帰ってください。

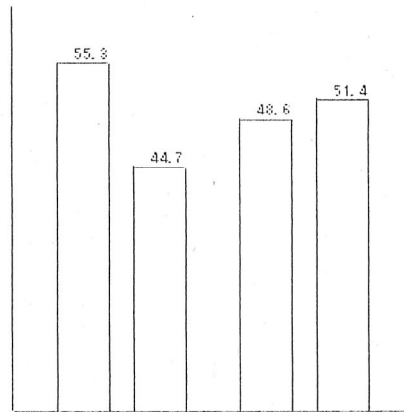
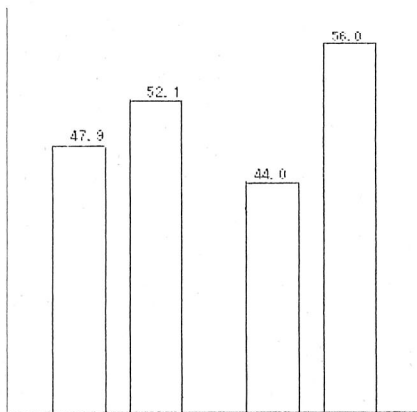
問題訂正

2 図2

グラフ上の数値の修正

48.0→47.9, 44.1→44.0

48.7→48.6



人間科学部 小論文 問題

1

次の文章を読んで、問1、問2に答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

出典：デイビッド・ウォレス・ウェルズ (2020) 『地球に住めなくなる日——「気候崩壊」の避けられない真実』NHK 出版、227 頁-234 頁。一部を改変してある。

注1) ストア派哲学：紀元前4世紀末頃、キプロスのゼノが創始したギリシア哲学。

注2) 目的論：事物や事態を目的の見地から説明しようとする考え方。

注3) プロパガンダ：思想・教義などの宣伝。

注4) 瓦解：^がかい：一部の崩れから全体が崩れること。

問1

傍線部 A について、近代以前の循環史観を文中の考えかたを踏まえて説明し、なぜこの歴史観は気候変動の時代にはもう当てはまらないのかを 250 字程度で記述しなさい。

問2

傍線部 B について、本文におけるディープ・タイムの意味を説明した上で、それになぞらえた物差しでは、人類の文明の存在期間に比べて、気候変動が真の永遠となる理由を 300 字程度で具体的に記述しなさい。

2

次の [A] [B] の文章および図を読んで、問1～問4に答えなさい。

[A]

肥満は、現代社会において男性、女性ともに大きな健康上の問題の1つであり、肥満を解消するための対策を講じる必要がある。

図1は、平成3年から令和元年までの男女別の20歳以上の肥満者（BMI^{注5}）が25以上の者の割合の推移を示している。図2は令和元年度の肥満者における生活習慣（運動習慣と食習慣）の改善の意思を調査した結果を示している。

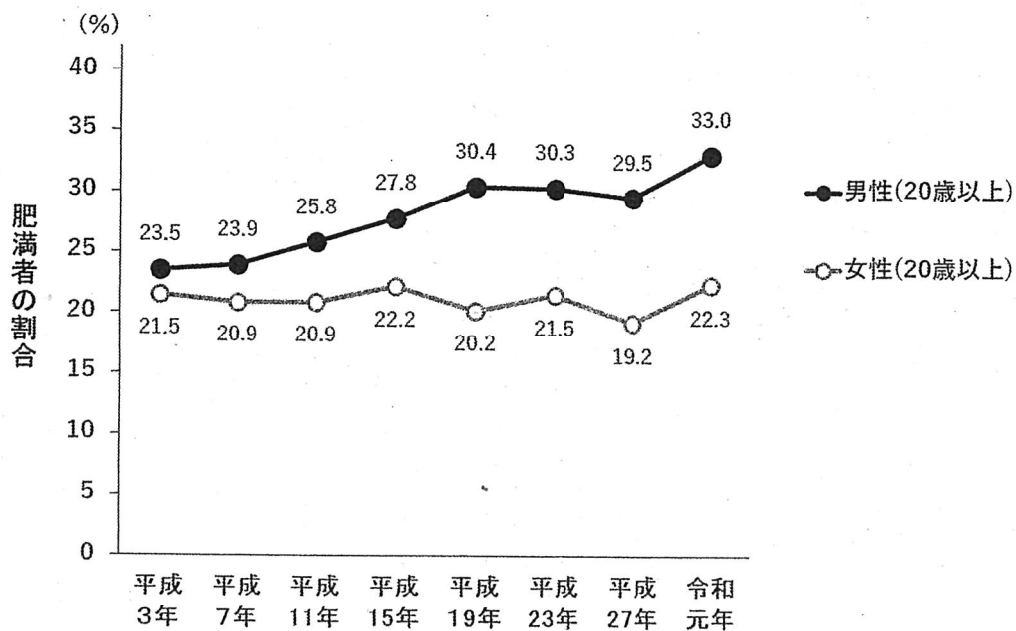


図1 肥満者の割合の推移

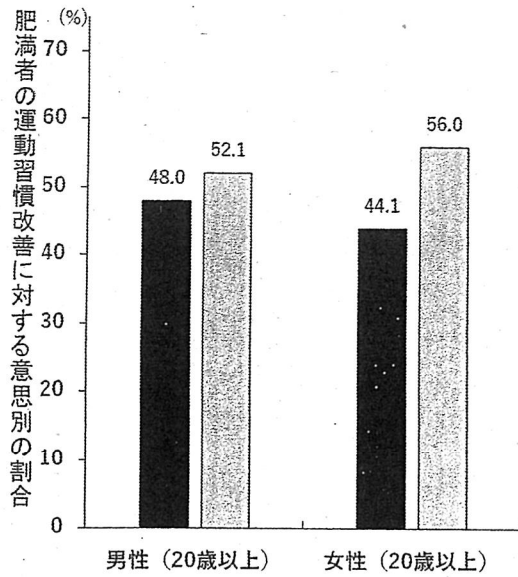
出典：厚生労働省「国民健康・栄養調査」平成3年～令和元年より作成。

注5) BMI=体重(kg)÷身長(m)² で表される体格指標で、日本人の場合は 25 以上が肥満とされる。

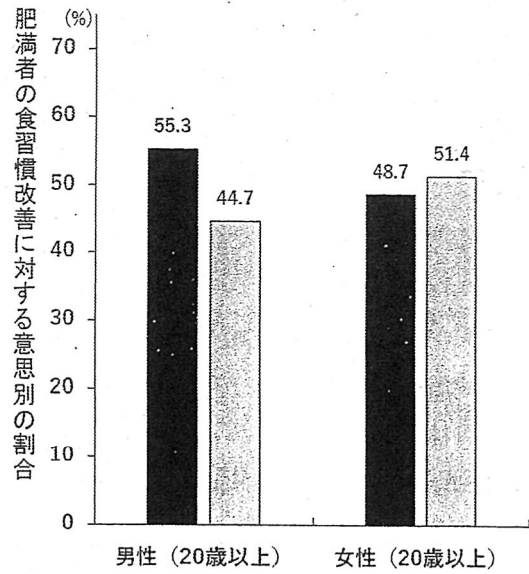
問1

図1の肥満者の割合の年次変化の特徴を50字程度で記述しなさい。

肥満者の運動習慣改善に対する意思



肥満者の食習慣改善に対する意思



■ 改善することに関心がない・
改善するつもりはない・
改善する必要はない

▨ 改善するつもりである・
既に改善に取り組んでいる

図2 肥満者の生活習慣の改善に対する意思別の割合

出典:厚生労働省「国民健康・栄養調査」平令和元年より作成。

問2

肥満の解消には、運動、食に代表される生活習慣の改善が大きく関わってくるが、図2から読み取れる特徴は何か。性別による違いに注目して 100 字程度で記述しなさい。

[B]

図3は、20歳から69歳までの男女を対象として、「仕事がある日の平均的な帰宅時間」を調査した結果である。

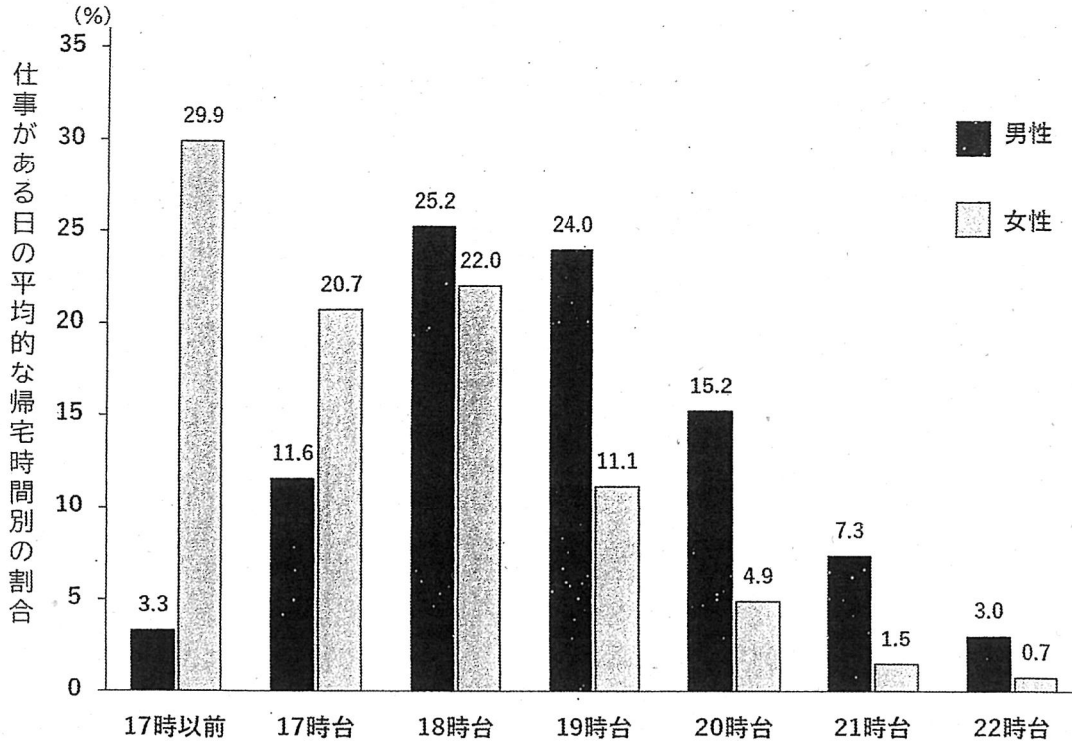


図3 仕事がある日の平均的な帰宅時間（20歳～69歳）

出典：「新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた 男女共同参画推進に関する調査（令和4年度 内閣府委託調査 株式会社マーケティング・コミュニケーションズ）」より作成。

問3

男女の帰宅時間の違い(図3)が、肥満者の割合の性別による違い(図1)や運動習慣、食習慣の改善の意思での性別による違い(図2)に関係していると仮定した場合、その背景にはどのような社会的問題があると考えられるか。図1～図3を踏まえながら、あなたの考えを200字程度で記述しなさい。

問4

図1～図3を総合的に考慮し、問3で挙げた社会的問題を解決するためには、どのような対策が効果的であると考えられるか。あなたの考える対策と予測される効果を200字程度で記述しなさい。